



刈込池（大野市）

紅葉が見たくて、この池にやってきた。

大野市の北東部、標高1111.5メートルにひっそりと水をたたえている。池の周囲は約400メートル、水深約5メートル。白山国立公園内にある、秋が深まるとハイカーが絶えない、逸品の探勝地である。

紅葉は今が盛り。ナラやクヌギなど雑木に混じって、ブナの原生林がほどよく色づき、森は明るく、にぎやかだ。どう表現しよう？赤、黄、緑、まるで絵の具をぶちまけたようなコントラストは、見事というしかない。

四季折々、この地を訪れている。小鳥のさえずりが心地いい春、一服の涼感をくれた夏、きのこや木の実を求めて散策した秋、冬は山スキーを楽しんだ。その度に森の木々は姿を変え、安らかなひとときを与えてくれた。これは、癒しの世界なのである。

背後には三ノ峰がそそり立っている。標高2000メートルを超える本県の最高峰。池の水面（みなも）は、この山から周囲の森まで、180度のパノラマを映し出す。

山行は混雑を避け、平日を選んだ。「静かという音があるもんだ」と独り言。ブス（簡易コンロ）を出し、コーヒーをたて、独り、紅葉と静寂を楽しんだ。

刈込池は、越前市から福井市に入り、国道158号線で大野へ向かい、西勝原から鳩ヶ湯方面に進む。打波川沿いに走ると、終点の上小池駐車場に着く。池までは徒歩で約30分。

（写真・林秀俊

文・永田康弘）

友の会だより

No.17
2011/11

子供たちに「夢」育成力を

地球は、御年50億歳の奇跡の星。日々深刻な問題を抱えつつ、未来に向かって動いています。大切な地球上で私達は何をしてきて、そして何ができるのでしょうか。かがく絵本には、そんな過去や未来に通じる秘密の入り口がたくさん隠されています。どこから入るか、何をみるかはあなたのご自由。

ここにご紹介したのはほんの道しるべですが、まずは1冊手に取れば、どんどん道が開けていくこと請け合いです。秋の1日、たまには道草しませんか。

「友の会」お薦めの8冊

(N)

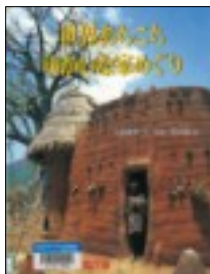
地球規模の危機と未来を教えられてくれる。
腕はさすが。迫りくる地球規模の危機と未来を教

大地のめぐみ 土の力大作戦



50億年前の地球の誕生から、現代の農業、農地、環境問題、ひいては増え続ける世界の人口と食糧事情までを網羅した力作。作者は旧武生市出身。
「大地とはなにか」に始まり「大地の中で生きていくもの」「失われていく大地」「大地を守れ、緑の作戦」など章立てし、一気に読ませる。大人向けの絵本といってもいいが、ストーリー性を持たせ硬派なテーマをシンプル化して小学生にまで読ませてしまう手腕はさすが。迫りくる地球規模の危機と未来を教

世界あちこちゆかいな家めぐり



(門脇)

砂漠の中にあつて、天然のエアコンがある家、壺みたいな家、木の上にあるツリーハウス。グリムの童話の一場面のような、筋交いがそのまま模様になっている家。花や蔦で覆われた家。台風がきて、家の中を風が吹き過ぎる超風通しの良い家。決して壊れない家。
その土地と、風土が人の知恵とあいまつってできた家々。世界を旅してこんな家が見たい、いつかこんな家に住んでみたい、そんな夢を掻き立ててくれる一冊。

キンダーブック・チャイルドブック

(M)

幼稚園の頃定期的購入していたキンダーブックかチャイルドブックという本を思い出した。絵本を通して、いろいろなことを空想した。雪の降る日には、アルプスにトンネルを掘って風通しをよくすれば、日本の表裏、公平に雪が降り、自分たちの地域の雪も減るのではと、いつも考えていた。
小学校の図画の時間、友達ガラス天井の都市で空飛ぶスクーターを描いていたとき、気温の安定した地下都市を描いたが、先生の評価は散々だった。たぶん、アリの巣か何かだと思ったのだろう。子供の「夢」を膨らませてやるのが、大人の仕事だと最近とくに思う。子供の頃、絵本は「考える」入り口だった。

絵ときゾウの時間とネズミの時間



(上野)

どの動物も、息を1回吸って吐く間に、心臓はドキドキドキドキと4回打つ。寿命を心臓の打つ回数で割ると、ゾウはネズミよりずっと長生きだけれど、一生に打つ回数は同じ。
もし、それぞれの動物の心臓が1回打つ時間を基準にすれば、ゾウもネズミも、全く同じだけ生きて死ぬことになる。小さい動物は、短い一生を全速力でかけぬけ、大きい動物は、ゆっくりのんびりと生きてゆく。ネズミは早く死んでかわいそうだななんてないんじゃないかな、と締めくくっている。自分も、自分の時間の中で生きれば良いと思った。

今、おもしろい

かがく絵本

地球というすてきな星



(楠)
この絵本に描かれて
いる“夢”に耳を傾け、考
えてみるのもよ
いかもしれません。

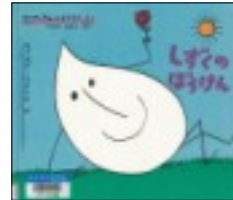
地球を元の、美しい姿に戻そうという“夢”が語られている、今だからこそ読んでほしい1冊です。
科学の発達に伴い自然は破壊され、本来は水と土と緑の星であった地球は黒く汚れてしまっています。その事に人間は薄々気付いていながらも、便利で楽な暮らしに慣れ、地球を死の星に追いついでいるのが現実です。

地球はえらい / しずくのぼうけん / おじいちゃんは水のにおいがした



(H)
日々の営みのなかで、近くにあるのに気付かない、大切なものについて考えさせられる3冊です。

生命が地球上に誕生してから50億年。生命のはじまりはひとしずくのちからでした。数え切れないほど多くの生命を育んできた地球に、私たちは大いなる感謝と責任をもって暮らしているのでしょうか。



そこに広がるパラエティに富んだ自由で不思議な異空間はドラえもん、4次元ポケットのよう。科学、未来への入り口としてどこにもあるのですね。そこで紹介された中で私のお気に入りの1冊は「絵で見るある町の歴史 タイムトラベラーと旅する1万2千年」。ある町の誕生(石器時代)から現在までを、キーとなる14の時代順にたどっています。

別冊太陽 かがくする心の絵本100



様々な道具を發明して豊かに暮らす時代もある。衰退する時代もある。復興。いつもいつも前の時代よりよくなる時代は限らないうちの未来の歴史が、過去の歴史の延長線上に思いつく。科学的な判断を扱うものもある。人間断たすものもある。(杏理子)

《今回ご紹介した本はこちらです》

大地のめぐみ 土の力大戦略

かこ さとし / 作 出版：小峰書店 (かこさとし大自然のふしぎえほん)

世界あちこちゆかいな家めぐり

小松 義夫 / 文・写真, 西山 晶 / 絵 出版：福音館書店 (たくさんのふしぎ傑作集)

絵ときゾウの時間とネズミの時間

本川 達雄 / 文 あべ 弘士 / 絵 出版：福音館書店 (たくさんのふしぎ傑作集)

地球というすてきな星

ジョン・バーニンガム / さく, 長田 弘 / やく 出版：ほるぷ出版

地球はえらい

城 雄二 / 案 香原 知志 / 文 松岡 達英 / 絵 出版：福音館書店 (みぢかなかがく)

しずくのぼうけん

マリア・テルリコフスカ / さく うちだ りさこ / やく フダン・ブテンコ / え 出版：福音館書店

おじいちゃんは水のにおいがした

今森 光彦 / 著 出版：偕成社

かがくする心の絵本100

横山 真佐子 / ほか編 出版：平凡社 (別冊太陽 日本のこころ 120)

Q

ブックトークには科学絵本を必ず1冊は入れるようにしています。けれど、この頃、あまりにいろいろな本がありすぎて、科学絵本とはどこまでが科学絵本なのかわからなくなりました。また、同じテーマを扱ったものでも、どれを選んでいいかわからなくなります。先生のお薦め絵本とともに、科学絵本とはどのへんが科学的なのか教えて下さい。



ブックトークでは聞き手の子どもの多様な要求に応えられる選本を心がけることが大切ですが、

必ず入れなければならぬと、堅苦しくは考えないでおきましょう。そうすると線引きも大きな意味を持たなくなります。分類は図書館員さんに任せて、私たちは興味深い、おもしろい本を子どもたちの前に提示していきたいものです。子どもたちの科学する心は、当たり前だと思っていたことに疑問を持つこと、「それって本当?」と疑うことから始まります。「うそっ!」「まさか?」という反応、新鮮な驚きで興味を喚起させる、そんな本を紹介したいものです。その本に出会ったことをきっかけに興味の趣くまま追

究して、やがてはその道の専門家。そんな話も長く続けていけばきっと聞こえてくるでしょう。科学絵本の選本で注意が必要なのは、科学の事実は新しい発見で往々にして塗り替えられることです。情報が新しいものであることが原則。どうしても代わるものが見つからず、情報の古い本を紹介したい場合はその旨を明確に。

写真技術の飛躍的な進歩で、肉眼では捉えられない瞬間を切り取ったすぐれた写真絵本が数多く出版されています。驚きや発見が溢れるそんな絵本が今、私は大好きです。

一方、子どもと一緒に調べ学習のために本探しをしていて、どれも似たり寄ったりで、肝心の欲しい情報はどれにも載っていないという体験はありませんか? 子ども用だからと、指導要領に沿って浅く、上っ面だけをとりあげた本では子どもを知りたい気持ちを満足させることはできません。編集する人々は、狭く深く入り込んでいきがちな子どもたちの好奇心の特性を知らないのでしょうか。かこさとしのように深く詳しい科学知識を子どもたちにわかりやすく著わしてくれる作家がもっともっと出てほしいですね。

しらべてみたよ

多崎和子(友の会会員)

今度の教科書改訂で、国語(光村図書)1、2年だけを調べてみた。全体として多種の書が、すごく多く紹介されているのに驚いた。

本はともだちとして、1年生で55冊、2年生で82冊もある。すべて表紙の絵、写真入りの紹介である。作、文・絵・写真などの著者名も記入されている。ずいぶんの数にびっくり。本好きな児童は、これをすべて読んだり、読んでもらったりしているのだろうか。

その中から、今回特集の科学物とおぼしき書だけを列挙してみる。

だいすきしぜん「バナナ」
天野實・斎藤雅緒
いのちのカプセル「まゆ」
新開孝
新自然きらきら 「はるをさがしに」
久保秀一・七尾純
「こいぬがうまれるよ」
ジョアンナ・コール他
「ペンギン」
いまいずみただあき
「クラゲゆらゆら」
楚山いさお
「こんなしっぽでなにをするの」
スティーブ・ジェンキズ他

以上これらのうちでも越前市中央図書館で見つけれないものもあった。

どれくらい読んでもらえるのかな。

谷出講座 科学絵本(6.23) から まずは40冊

書名	作者
『かわ』	かこさとし
『こんにちは あかぎつね』	エリック・カール
『ないた』	中川ひろたか
『あくび』	中川ひろたか
『わたし』	谷川俊太郎
『あたまのなか』	高橋悠治
『おなら』	長新太
『ちのはなし』	堀内誠一
『はははのはなし』	加古里子
『ノントンはみがきはーみー』	キヨノサチコ
『つとむくのかばみがき』他	松谷みよ子
『やさいのおなか』他	きうちかつ
『ごちゃまぜどうぶつえん』	キース・モアピーク
『絵本ジャンヌ・ダルク』	ジョセフィーヌ・プール
『絵本アンネ・フランク』	ジョセフィーヌ・プール
『うんこ日記』	村中季衣
『ちゃんとたべなさい』	ケス・グレイ
『もぐらとずぼん』	エドアルド・ペチシカ
『さかなださかなだ』	ながのひでこ
『うみ』	G.ブライアン
『おなべおなべにえたかな』	こいでやすこ
『おべんとう なあに?』	山脇恭
『おおきくなるっていうことは』	中川ひろたか
『ぼくがラーメンたべてるとき』	長谷川義史
『ペドロの作文』	アントニオ・スカルメタ
『かみコップでつくろう』	よしだきみまる
『ドライアイスであそぼう』	板倉聖宣
『ぜつぼうの濁点』	原田宗典
『ちいちゃんのかげおくり』	あまんきみこ
『猫は生きている』	早乙女勝元
『そして、トンキーもしんだ』	たなべまもる
『まちゃんと』	松谷みよ子
『ひろしまのピカ』	丸木俊
『おこりじぞう』	山口勇子
『ベトちゃんドクちゃんからの手紙』	松谷みよ子
『せかいいちうつくしいぼくのむら』	小林豊
『アンナの赤いオーバー』	ハリエット・ジーフェルト
『せんそうごっこ』	谷川俊太郎
『風が吹くとき』	レイモンド・ブリッグズ
『あなたがもし奴隷だったら』	ジュリアス・レスター

けばけばしい表紙のアメリカのSFパルプ雑誌のイラストをながめていると、古き良き時代のSFの歴史を垣間見ることができる。「AMAZING STORIES」「WONDERS STORIES」「FUTURE」など、いまや古書マニアの間では高価で取引されている人気アイテムだ。もともとこうしたSFという分野は、我々庶民にとっては驚きの世界であり、大袈裟に言えば人類の夢でもあった。しかし、いまやSFは完全に斜陽と言われている。その輝きは失われ、すべては過去のものとなってしまう。あるのはなつかしいノスタルジーだけである。東京・大阪間を3時間で走る弾丸列車や、宇宙空間に人間が住める宇宙ステーションなど、僕が子供の時代はウソだろう、と思いつつもワクワクさせてくれた未来の科学物語はし

もっと欲しいな、「夢」の世界

かし、よく回りを見渡せば、すでに鉄人28号や鉄腕アトムも動いていたのだ。科学がアポロ月に送った時代はまだしも、いまやSFには夢もロマンもないと言われる。宇宙船やタイムマ



シンなど、当時は荒唐無稽といわれていた楽しいファンタジックな夢物語は一体、どこに行ってしまったのだろうか。

現実には「科学」は完全に敗北してしまったという声が大き

い。我々の夢を実現化してくれていたはずの科学は、換言すれば人類をますます幸福に導いてくれるはずの科学は、SFの衰退と共に失墜してしまったと言われている。なるほど、いまや人類の未来は暗いと思っている人がほとんどだろう。SFも滅亡や破局を描くしかないのかも知れない。しかし、「ドラえもん」はなんて素敵なおSF物語なのだろうか。

もともとは水爆実験で突然変異を起こして誕生したゴジラも、いまでは率先して放射能を吸収して生きている。つまり当初は放射能を撒き散らしていた迷惑な怪物も、いまや核物質を摂取してくれるありがたい生物なのだ。ここに僕はSFに残された明るい夢、ロマンを感じずにはいられない。さらにチェルノブイリでは放射線を食べて成長するバクテリア菌が発見されていることも付け加えておこう。

夢やロマンならまだまだ身近にある。あの人気アニメ「宇宙戦艦ヤマト」も、単純には地球を征服

しようとするガミラス帝国との戦いの物語にしか見えないが、じつは放射能汚染が進行している地球を救うために、遠いイスカンダル星へ放射能除去装置コスモクリーナーDを受け取りに行くというストーリーである。「コスモクリーナーDは、まるで強力芳香剤のように放射能を除去してくれるのである。

「テレビばかり見ていたら、ますますアホになるわよ！」と叱る世間のお母さん。子供たちは夢とロマン溢れる素晴らしい教育番組をちゃんと見ているのです。

ところで、イスカンダルの美女スターシヤもエイリアン（宇宙人）というのが面白いが、いまだ地球に友好的なエイリアンの存在がないのが寂しい。実写版の「ヤマト」は木村拓哉や黒木メイサが出演していたが、「デスラー」総督はアニメ同様に伊武雅刀が演じていたのは正解だろう。ただしスターシヤは小雪さんであった。僕なら絶対に滝川クリステルを推すね。

（文・三田村善衛）



なにか不謹慎な感じの表題になってしまったが、久しぶりに訪れた「池ノ上の工業試験場」は山際にあるので、す

漆で「ぼんこ」復活

でに秋の色を帯びていた。車を試験場の庭に入れ、錆びて重いシャッターを上げると場長の森川さんが一人で木工用旋盤を回し、やりがんなの柄のようなものを挽いていた。お世話になりますと挨拶をして漆塗りのための材料を運び入れた。

この材料というのは先日「蔵の辻」の骨董市で買い求めた大杉の「ぼんこ」と櫂の丸盆、薄汚れた大きな深いぎらである。この厚い大きな「ば

んこ」は鯖江市の戸の口郷から出たもので、樹齢何百年という代物で、餅をこねるための台として戦前から使われていたものであるとのこと。干割れを直したり、反りを止めるため二本の足が組み込まれたり、充分に使い込まれて

味があるし、素材としての尊厳すら感じることができ。杉はその材質が柔らかいので、拭き漆を何度か重ねて大きなテーブルの天板にし、暮しの傍らに置き敬意を払おうと思う。

渡来までロマンはせる「フイゴ」



黒く大きな木製のフイゴ

余談であるがこの「蔵の辻」の骨董市オークションで友人のW君は錆びてぼろぼろの五分市釜を二千円で購入した。

しかしあまりの古び加減に批評家諸氏にさげすまれ、家に持ち帰ることなく私のところに放置されたままになっっている。

またこの日、試験場の廊下には黒く大きな木製のフイゴ（写真）が置かれていた。とにかく古いもので来歴がわかるとおもしろいだけども、不明であるとのこと。日野山の麓の上平吹あたりのものであればこの地の鉄や鍛造打ち刃物、ひいては鋳物師にまで物語が開けてゆく予兆があり、心ときめくものがある。

このフイゴは試験場の森川さんの手で修理され鍛造打ち刃物の現場で使用されてゆくとのこと。この大きな黒いフイゴの送る風でごうごうと火を起こし、鉄を焼き、鉄を敲（たた）く様を思うと遙か渡来文明の息吹にまで思いを寄せることができ。古代、まさに近江の国、坂田郡、権力の中枢、鉄の民である渡来系の息長氏の背中が遠くに見え隠れするよつで私の血が騒ぐ。

（武生クラフトセンター代表）

コックピットの形状が鳥の嘴に似ているので「怪鳥」と呼ばれた飛行機があった。音速の二倍でパリとニューヨークを結んだ。所要時間は三時間四十分ほど。

新幹線を利用して福井から東京へ行くのと同じである。この超音速旅客機コンコルドが空から消えて十一月で八年になる。

コンコルドはイギリスとフランスが一九六二年に協定を結んで共同開発に着手した。ところがその過程で、就航しても採算がとれないことが分かった。それでもやめるわけにはいかない。すでに巨額を投じているし、何より両国の威信がかかっているからだ。計画は続行され、当初見積もりの八・五倍、約一兆円を費やして十四年後にデビューした。速度を優先したので客席は百人ほどに限られ、料金設定は通常の二倍以上。案の定採算が合わない。おまけに騒音がひどくて評判が悪かった。赤字の中で飛び続けたものの、離陸直後に墜落炎上した事故をきっかけに運航が打ち切られた。当然、日本を含めて数力国が発注した契約は取り消された。

行動生態学の分野で以前「コンコルドの誤り」という論議があったという。怪鳥の開発から終焉までの顛末をいささか

コンコルドの誤り

目先の利益に曇らされず

の揶揄を込めて援用したものだ。この論は人類学者の長谷川眞理子さんが著書などで度々次のように紹介している。

一羽の雄の鳥が、ある雌鳥に求愛していたとする。ずいぶん長い時間を費やしてせつと餌を運んだのに雌は一向に振り向いてくれない。雄はこのまま求愛行動を続けるべきか、やめるべきか……。雄はすでに大量の投資をしてしまったので今やめると大損をする。だから求愛をやめないだろう。つまり、過去の投資の大きさが将来の行動を決める。これが一昔前の考え方だった。しかし今の行動生態学ではこの考え方は誤りなのだという。

いわく。くだんの雄がむなしく求愛を続けているそばに、求愛されれば応える意思のある別の雌がいたとする。雄がこれに気がついたらさつさと乗り換えるだろう。これが動物の行動原理だというのだ。動物の世界では、行動するときの意思決定は過去の投資の大きさではなく将来の見通しと現在どんな選択肢があるかを見極めて行われる。子孫を残すための動機付けは実にドライなのだ。この説に従うなら「コンコルドの誤り」はなんと人間臭いことか。先の見通しが無いにもかかわらず、注ぎ込んだ費用の大きさに目を眩まされておかしな選択

越前太郎（匿名希望）

をしてしまった。大英帝国と學術の国フランスの誇りとか国家の威信などというものが冷静な判断を妨げた。結果は事故で百人以上の人命を散らし国の面子も失って超音速機は退場に追い込まれた。

人間の行動も似たようなものだと思う。すぐに諦めて別の女性を追いかける人。諦めきれずプレゼントを続け、いつまでも付きまとうタイプ。いろいろある。一個人ならどちらでもいいのだが、団体や組織、まして国となるともうもいかない。例えば登山の場合。七合目まで来たところで天候が急変したとする。頂上はすぐそこに見える。ここでのリーダーの役目は引き返す勇氣を持つことだとされる。無理して休暇を取って諸々の準備を整えたことや、苦労してここまで登ってきたという「過去の投資」にとらわれると、遭難の憂き目を見ることになりかねない。

国家や自治体にもあてはまる。例えばダム建設。何年もかけて地元を説得して補償交渉をまとめ、集落の移転や取り付け道路の工事も始まった。巨額の費用を投じてきたので今さらやめられないという例の話。原発にも似たようなことがいえる。いずれも過去の投資の大きさが目の前の利益に目を曇らされるとんだことになる。「コンコルドの誤り」の訓えを胸に置きたい。

（了）

図書館さん才・ネ・ガ・イします

角川グループ 新人物往来社

代表取締役社長 飯田日出男
(旧今庄町出身)

仮にの話である。65歳で定年を迎え第2の人生のスタートを切ったとしよう。まず気になるのが残りの人生の時間である。とりあえず85歳くらいまでが寿命とみる。あと20年である。この時間を「も」とみるか「しか」と思っか個人の手だが、多くの会社人間には共通すること

にとつて関心のないことではないだろう。私は出版社に勤めている関係上、本に接する機会は他の業種の人より多いが、この際仕事上の必要で読む本と読みたい本は別である。だから私も大いに心悩ます問題なのだ。健康状態(特に眼)や集中力の低下によって一冊を読了する時間は若いころより大幅に長くなる。それを助案して1冊当たり10日間とみる。すると1年で35冊、掛ける20年である。700冊、これが20年間で読める冊数の理論値である。しかし、これでは本を読むだけに残りの人生を費やし

死ぬまでに読みたい500冊

古典をメインに

がある。それはこれまでに本を読んてこなかったか、である。こう書くとか「いや自分はよく読んでるほうだよ」とか「一体どれだけ読めばいいのかわ」という反論・非難もあると思う。その議論はひとまずおく。言いたいの残された時間で一体どれくらいの本が読めるかである。これは本好き

ているように何でも味気ない。そこで思い切つて500冊とする。これなら年25冊、月になおせば2冊である。これを図書館で読みたい。500冊の本など買って置いておけるお金もスペースもないからだ。さて次の問題。何を読めばいいのかわ、である。私はジャンルを問わず風雪に耐えた本、いわゆる古典といつていい本こそ晩年に読むにふさわしいと思つている。想定読者は団塊

の世代であるから戦後刊行された名著をずばり500冊選ぶ。そうはいつても選定はコリヤ大変な作業だ。さらに選定以前に古書店めぐりでもしないと現物が手に入らないものも多い。ところが、である。図書館には蔵書してある可能性が高い。棚卸しをすれば案外500冊くらいはたちまちリストアップできるだろう。

さらに次の問題。誰が選定するのか。すぐに考えつくのが利用者アンケートだが、この方法はサンプルがまばらになって500冊のコンセプトが崩れてしまふ恐れがある。そこでジャスト世代60〜65歳の市民を中心にした選定プロジェクトチームをつくらう。

できれば有識者、学校の先生といったお決まりの人選ではなくさまざまな職業体験者で想像力の豊かな人たちをお願いしたい。選定結果には文句は言わないことは大原則だ。いやなら別の本を読めばいいのである。

こうして月2回、図書館に通う。自分では気がつかなかったかつての名著、読み逃した本と出会う楽しみで胸をわくわくさせて自転車を転がす己の姿を想像するだけで興奮する。到着した市民図書館の棚のタイトルがいいではないか、「死ぬまでに読みたい500冊」。なんといつても読むまでは絶対に死ねないからである。

原発、段階的縮小を

東日本大震災が発生してからもう七ヶ月が過ぎた。しかし、被災地の復興は遅々としてはかどっていないようだ。特に福島第一原発事故による放射能汚染の深刻さは想像を絶するものがある。

本県は14基もの原発を抱えており、同じような巨大地震や津波に見舞われたら東日本以上の大惨事になりかねない。各種アンケートによると、国民の大半が「脱原発」を支持しており、恐らく福井県民はそれ以上だろう。

スリーマイル島やチェルノブイリの原発事故で原発の怖さを理解していたはずだが、いずれも対岸の火事であった。今度ばかりは座視するわけにはいかない。原発は原子力の平和利用の最たるものとして受け入れられてきた。だが、国や電力会社が言ってきた安全神話が崩れ去った以上、原発依存のエネルギー政策は見直さなければならぬと考えるのが自然だろう。

本県の西川知事は、マスコミのアンケートで「原子力に過度に依存することのないよう、エネルギーの多角化を推進することは重要」と答えている。政治的発言というが、「脱原発」でもなく「推進」とも言っていない微妙な、いわゆる玉虫色の発言だ。一方、原発立地自治体の首長は原発推進の立場を鮮明にしている。原発関連連収に頼り、若者の雇用や地域経済を支えてきた現実が重くのしかかる。しかし、第二、第三の福島をなくし、子供たちの未来に禍根を残さないためにも脱原発の道を探るべきだ。代替エネルギーの確保など段階的縮小を急ぎたい。

(福井市 三上和夫)



「地底探検」(原作:ジュール・ベルヌ「地底旅行」)

ヘンリー・レヴィン監督(1959年作品) 135分

19世紀のSF作家、ジュール・ベルヌの原作を映画化した「地底探検」を紹介します。原題は「JOURNEY TO THE CENTER OF THE EARTH」、1880年のイギリスはエジンバラの地質学者リンデンブルック教授(ジェームズ・メイソン)が、学生のアレック(パット・ブーン)から古い溶岩をプレセントされたことで、この大冒険が始まる。溶岩の中に、300年前に地底探索に行ったまま行方不明になった人物の遺品が入っていたため、地底への入口を見つけ、アイスランドの死火山の火口から地中へ降りていく。途中、行方不明になった人物の末裔に妨害されたり、コモドオオトカゲの超大型怪獣に



襲われたり、地底の海で磁場に吸い込まれたり、観客を飽きさせない展開が続く。やっと海底ならぬ地底に沈んでいたアトランティス大陸に到着するが、地上へ戻る穴を爆破したことで、真っ赤な溶岩が噴出し、聖火台のおわんに乗ったまま、地上へ通じる穴(ロングホール)を急上昇。遠くに見える小さな丸い空に向かうおわんの上のアドベンチャーたちの何かすがすがしい表情が、見事なラストへつながっていく大冒険スペクタクル。パット・ブーンは、映画の中でも甘い歌声で恋人をメロメロにさせ、地底では年上の女性に甘え、最後に地上へ吹っ飛ばされて落下した場所が、尼僧がいつぱいの修道院の中庭(しかも裸で)。パット・ブーンってこんないい役者だったんです。共演するアヒルが助演賞ものの存在で、アフラックのコンマシヤルを作った人は、この映画を見たに違いないと確信すること請け合い。アヒル好きの人は必見の映画です。

(K弟)

宮沢賢治

サマーファンタジー大好評

2月に第2弾も企画中

8月21日

(日)の夜

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」

「サマーファンタジー」



写真左から
福田さん(ピアノ) 荒井さん(チェロ) 五十嵐さん(朗読)

5種類の声を読み分け温かな独自の世界を創り上げた五十嵐さんの朗読、国際コンクール第2位の荒井さんの語りかけてくるようなチェロの豊かな音色、それに呼応するかのような福田さんの素直で優しいピアノの音色、プロジェクターに映し出された藤城清治さんの影絵、それぞれが個性豊かに、賢治が織りなす銀河の不思議な空間を演出、学習支援室にいるかのお客様とまるで一緒に宇宙を旅しているかのようなそんな幻想的な一夜でした。2月には、宮沢賢治の作品で雪のファンタジーと称した催しをただ今企画しております。こちらもどうぞご期待ください。

秋の日記

ご飯粒にこそ味あり

(文・O2)

お蔭様で、今年も家族が食べるのに十分な米がとれました。感謝。

世界の人々の主食は、大きく分けるとアジアの「米」と欧州・北米等の「麦」ですかね。世界紀行みたいなテレビを見てい

ると、他の主食には南米のキャッサバとか、熱帯ではタロイモとかが出てきますが。

うんちく本では、

「米は、一般的にそれ自身に味がありそのまま食べるのに適している」、一方「麦は、粉にしてパンや麺などの加工に適している」そう。

二つの食材で一番の違いは、「粒」と「粉」という形状ですね。

「米文化と麦文化」とか「粒の文化と粉の文化」なんて、世界や日本のいたるところの文化を研究したわけ

じゃないので、大風呂敷は広げるつもりはありません。

米は、籾殻・薄皮を取り釜で炊いて食べます。麦は、脱穀して、挽いて粉々にしてそれからパンや麺に形を変えるんですよ。米

党、麦党、あるいは麺党など日本人もいろいろですから、それをもって傾向を語るつもりはありません。

ただ、一つだけ。ご飯粒、とても小さいけれど自分の味をしつかりもち、かつ茶碗の中で多くの仲間と調和している、こんな社会イイと思いませんか。粉物にはない社会。

自分の味がとてもすばらしくても、相手の味を痛める自由はないはず。自分の信じるものを、他に伝えたいからと強くでたとき、そこに争いが起きるかも。イキモノの性。





マイスナップ

普段から路上観察を生業としているので、街中の面白い物件を探し回ることが多い。しかし、最近はその面白い物件がなかなか発見できないのだ。では、面白い物件とはどういうモノなのか。ひとことと言うと、見た人がニヤリとするモノ、とても定義しようか。それは自然に、偶発的に生まれた場合もあるが、人が意識的に作り出したモノも少なくない。

例えば、今回の物件を写真でご覧いただきたい。なんと見事にハート型に剪定された庭木である。もちろん、このような素敵な形に樹木が勝手に育つわけはなく、あきらかにこの家の住人が意図的に作り上げたものだろう。

じつは、このハート型の樹を最初に発見したのは今から約十年も昔のことだ。その後僕が地元のケーブルテレビや雑誌な

いろんなカップルちどうぞ

どでも紹介しているうちに、口コミで噂が広がり、今や若いカップルにとってはまさに神聖なラブ祈願スポットと化している。なんと毎年、クリスマスやヴァレンタイン・デイの季節になると、このハート型の樹には、あちこちの恋人たちによっていろんな飾り付けがされるし、熱い二人にとっては絶好の記念写真の場ともなっているのだ。もちろん世の不倫カップルとやらも、この樹の前をこっそりと車で通過する際には、それなりの想いが交錯するものらしい。

(三田村善衛)

《写真と思い出、募集中》

会報では、一般の方から広く、思い出のスナップ写真を募集します。ジャンルは問いません。それに、300字ほどで軽い文章を添えてください。

あて先は、〒91510832

越前市高瀬二丁目7-24 越前市

立図書館「友の会だより」まで。

YA倶楽部

10代の読書活動の推進を目的とした活動を行う「YA倶楽部」。年2回発行する会誌「FULL COURCE」には、OBからの投稿作品もある。書き続けることが筆力につながる。

粉雪が舞う頃に

seiya

こたつでぬくぬくしていると、幼なじみからメール。
『今から雪合戦！四十秒で支度して公園来い！』

今からって。今夜の八時ですが……

みかんをもむもむ食べながら、やると言ったら聞かない幼なじみの相手をするかしまいか考えてみた。

結局、相手するのであるが。

「遅い！」

すべり台の上。真っ白のコートに身を包んだ女の子一人。

「……寒くないか？」

思わず尋ねる。今日は風が強い。

すべり台の上はもつと強いはず。

「寒いわ！」

「でしような」

素直でいいが、なら下りようとなないのか。

「では、雪合戦を行う！」

「早速かい」

「んむ。ではルール説明！二人しかないからお宝争奪戦的な感じ！」

「いや、わかんねえよ」

勢いで言いやがったな。こいつ。

ホント、ノリだけで生きている奴だ。何故こいつと幼なじみなのか。ただお互いの両親の仲がいいだけなのに。

「つまり！お宝を守る人と奪う人に別れるわけよ」

「ああ。それで、奪ったら勝ちって

か」
「そう！時間内に守れば勝ちよ」

とても満足そうな笑顔だ。わかったからさっさと下りろ。寒いだろ。

「んじゃー。お宝は……」

すべり台から下り、んー、と唸りながらお宝っぽいのを探す。

「んじゃこれで」

指差すのはウサギの銅像。

「奪えるか!？」

思わずツツコミ。狙ったなこいつ。

絶対狙っただろ。

「えー。じゃあこれ」

俺の帽子を指差す。

「なんで俺のなんだよ！」

「お宝としての価値ないよねー」

失礼な奴だ!？」

「仕方ないわね。ついてきなさい」

「えー。じゃあこれ」

俺の帽子を指差す。

「なんで俺のなんだよ！」

「お宝としての価値ないよねー」

失礼な奴だ!？」

「仕方ないわね。ついてきなさい」

「えー。じゃあこれ」

俺の帽子を指差す。

「なんで俺のなんだよ！」

「お宝としての価値ないよねー」

失礼な奴だ!？」

「仕方ないわね。ついてきなさい」

「えー。じゃあこれ」

俺の帽子を指差す。

「なんで俺のなんだよ！」

「お宝としての価値ないよねー」

失礼な奴だ!？」

「仕方ないわね。ついてきなさい」

「えー。じゃあこれ」

俺の帽子を指差す。

「なんで俺のなんだよ！」

「お宝としての価値ないよねー」

とりあえず、陣地を作ろうとアスレチックへと逃げ込む。
「持っている集中砲火の危険があるからなあ」

とりあえず、アスレチック内にある石のベンチの上に置き、雪で埋める。凍ったりはしないだろうな……

「……と。そろそろか」

ベンチから離れ、すべり台の上。公園内を見渡す。見晴らしはいい。

それに、上から狙ったほうが当てやすい。今のうちに雪玉でも作るか。

すると、足場が悪いのに走ってくるバカ一人。

「うおっしやあああああああ！」

雪玉片手に全速力。でも、足場が悪いのでそんなに速くない。

「ばーか」

まずは一発。頭に命中。

「いたー!!」

「ほれほれ」

いくつか作っておいた玉を投げる的確に当てる。情けはない。

「ちよつ。ちよつと待っ！」

「はいはい」

奴が飽きるまで当て続けてみる。ただ、そろそろ玉がない。

「玉切れかつ！」

にやり、と不敵に微笑む奴。反撃とばかりに玉を投げつけてくる。が、届かない。

「届かねー!!」

きた。嫌な予感的中せずすんでよかった。
「まったく。手加減なさい！」

「はいはい」
隠していたお茶を回収。一口飲む。頭が痛くなるほど冷たい。

「それで、急に何故雪合戦？」

アスレチックの下。粉雪が降ってきたので雪宿り。風は弱くなってきた。

「んー。たまには、ね」

頬を赤くした幼なじみは俺に身を寄せた。

「おい。どうした」

「だって、もうすぐいなくなるじゃん」

「ぼそり、と本音が聞こえた。」

「まあ、そうだな」

「こーやって遊べる回数、減るじゃん」

「左手が触れる。氷のように冷たい。」

「会う回数、減るじゃん」

人肌を求めるように、指と指を絡める。

「話す回数、減るじゃん」

「ぎゅっ、と握られる。ぎゅっ、と握り返す。」

「触れ合う回数、減るじゃん」

右肩に重さを感じる。顔を埋めていた。
「……好きなのに……傍にいる回数、減るじゃん」

顔は見えない。けれど、泣いているのは、わかった。
粉雪が風で舞った。

fine

友の会 会員から

市川新松先生は、水晶をはじめ色々な鉱物の結晶の美しさに感動して、山々を歩き鉱物採集や研究に努めた。そして遂に水晶を中心とした研究が世界の学者に認められ高い評価を受けた。

少年時代から教師になりたいという強い願望から教師になり、更に水晶の研究に熱中し、大きな研究成果を収めた一生を紙芝居に作りました。紙芝居を通して、先生の努力する姿を子どもたちに伝えていければ有難いと思う。

(宗近)

サマーファンタジーはひと夏の楽しい夢でした。そして今は科学絵本に夢中。私ってはまりやすいのかも・・・杏理子(杏理子)

朝最近とみに身体の不調が目立つようになりました。いろいろな症状は、想いが通らない故の感情のシグナルとも指摘されました。ゆつくりとか、まあまあとか、何とか自分を納得させようとしてはみるのですが・・・皆様もご用心。(m)

科学絵本特集のこのタイミングで、かこさとしさんにお会いすることができた！ものごとは、決して理系とか文系とかにわけられるものではない、と語られた時には、思わず大きく頷いてしまった。ただただ感激！(澄)

今号では、プロのライターの原稿を2本入れました。プロとアマチュアのの違い？原稿料を取っているか、いないかで簡単に判断しています。もちろん会報からの原稿料はない。実験的な試みです。(Y)

今号に投稿願った飯田日出男氏は、筆者の一級下、武生高校新聞部の仲間でした。東京で法律誌、経済誌を渡り歩き、数年前に角川グループにヘッドハンティングされた出版界のスペシャリスト。高校時代は、2人で「日刊紙をつくる会」を立ち上げ、一週間で頓挫した、苦い経験を共有しています。受験勉強ともお互い無縁でした。投稿ありがとうございます。(Z)

越前市図書館友の会・越前市立図書館 共催事業

古本市

古本市

ご家庭で眠っている本
ありませんか？

愛着があつて捨てられない、でも誰か読んでもらえる人に譲りたい、なんて本はありませんか？
図書館友の会では、そんな本を集めてリ・ユースする「古本市」を今年も開催します。
古本市で他の方にお譲りしたい本がご家庭にありましたら、是非図書館までお持ち下さい。

なお、古本市の本は、図書館友の会の活動費用に充てるため、一部有料配布させていただきません。

平成23年 11月12日(土)

越前市中央図書館にて
友の会会員の方は午前11時から
一般の方は午後1時からの入場となります。
会員の方は、会報に同封した「先行内覧ご優待券」をお持ち下さい。

越前市図書館友の会

《連絡先》 越前市中央図書館
《住所》 915-0832 越前市高瀬二丁目7-24
《電話/FAX》 0778-22-0354 / 0778-21-2001
《Email》 tomonokai@lib-city-echizen.jp

